

排出物対策

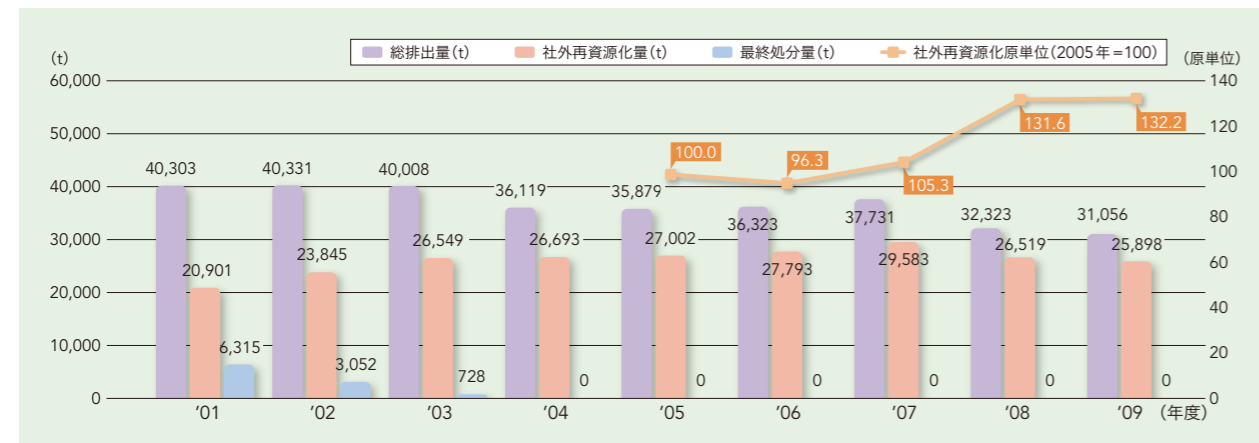
企業情報 → CSR活動 → 排出物対策 <http://www.tdk.co.jp/csr/csr03800.htm>

全世界で発生量そのものの抑制へ

当社では、2006年度までに国内、海外全サイトでゼロエミッションを達成し、資源有効活用の観点から、委託処理する排出物（社外再資源化量）の削減に努力してきました。

今後は、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の基本に立ち返り、さらなる発生抑制を主体とした活動を進めていきます。

排出物推移（日本国内）



海外サイトの状況

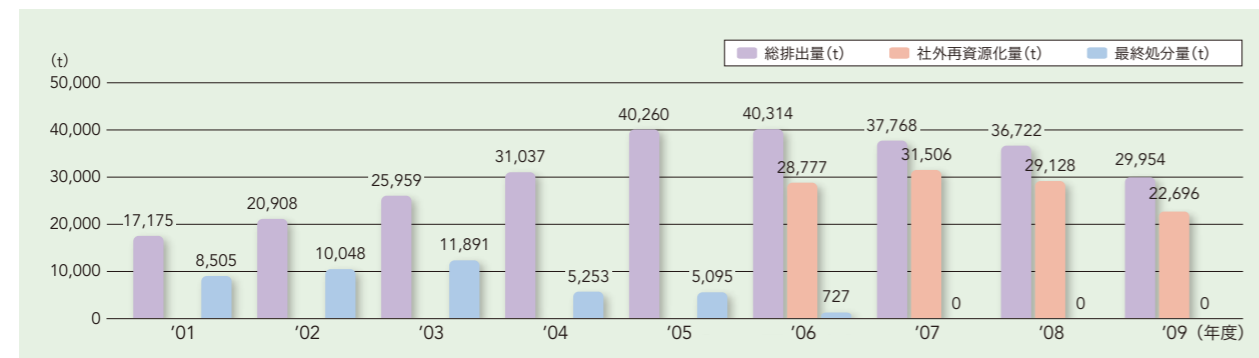
海外サイトでは、2009年度目標として日本国内と同じく「総排出量を2006年度比3%以上削減」を掲げ、取り組んできました。2009年度の総排出量は2006年度比

日本国内サイトの状況

日本国内サイトでは、2009年度目標として、「総排出量を2006年度比3%以上削減」を掲げ、取り組んできました。2009年度の総排出量は2006年度比14.5%減（2008年度比3.9%減）の31,056トンとなり、目標を達成することができました。また社外再資源化量については2006年度比6.8%減（2008年度比2.3%減）の25,898トンとなりました。

25.7%減（2008年度比18.4%減）の29,954トンとなり、目標を達成することができました。また社外再資源化量については2006年度比21.1%減（2008年度比22.1%減）の22,696トンとなりました。

排出物推移（海外）



環境配慮型製品の創出推進

企業情報 → CSR活動 → 環境配慮型製品の創出推進 <http://www.tdk.co.jp/csr/csr03900.htm>

「製品環境政策」であり「品質保証活動」である

TDKにおける製品環境とは、「製品が環境に配慮した設計になっていること（またはその基準）」を指し、「製品由来の地球環境汚染」の予防と管理を目的とする、持続可能な企業経営のための「環境政策」であり「品質保証活動」と考えています。

今後優先すべき政策領域として

1. 気候変動
2. 環境と健康
3. 天然資源の持続可能な使用と廃棄物の持続的管理
4. 自然と生物多様性

が考えられ、製品環境の戦略的テーマを以上の4政策に絞って推進しています。

具体的には、製品への環境配慮要件を以下の3分野に大別しています。

- (1) 規制化学物質を含まないこと
- (2) 資源を有効に利用していること
(資源循環/省資源化)
- (3) 省エネルギー化になっていること（製造時の消費エネルギー/使用時の消費電力など）

当社では、規制物質の製品への非含有はもちろんのこと、さらにCO₂排出削減にも力点を置いた活動を行っており、

- 新エネルギーを創造する「創エネルギー」
- 蓄電する「蓄エネルギー」
- 電気を効率よく変換する「変エネルギー」
- 消費電力を低減する「省エネルギー」

の4つをキーワードに製品開発を進めています。

環境配慮効果の高い製品を継続的に創出

当社では、製品開発の開発構想・設計試作・最終段階で、製品の全ライフサイクルでの環境に与える影響を評価する「製品アセスメント」を1997年から導入しています。製品を構成するすべての部位に含まれている微量な化学物質の把握、製造時の投入エネルギーの数値化と

低減効果、製品使用時の消費電力の削減効果に重点を置いて審査し、承認した製品だけが商品化され市場に流通される仕組みとなっています。

2008年9月には、環境配慮効果の高い製品を継続的に創出する施策として「優良環境製品」認定制度を導入しました。

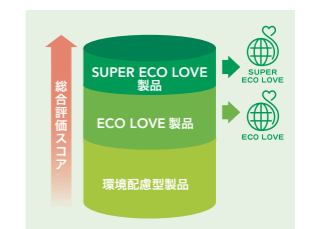
この認定制度では、製品アセスメント承認製品の中でも環境負荷低減効果が高く、業界においても他をリードする製品を「優良環境製品（ECO LOVE製品）」、さらに「ECO LOVE製品」の中でも効果が高く業界トップレベルの製品を「超優良環境製品（SUPER ECO LOVE製品）」と認定し、当社ホームページで紹介しています。

認定された製品は、現状にそぐわなくなった場合に降格される仕組みとなっており、常に時代に即した製品の開発を支援する体制を構築しています。

現在は、気候変動（地球温暖化防止）政策に重点を置いているため、製造・流通・顧客での製造・使用時の省エネルギー化と新エネルギー分野での貢献製品が、「環境負荷低減効果の高い製品」として評価される仕組みとなっています。

この「優良環境製品」は2009年度現在、売上高の約15%*を占めています。今後2011年度には、倍の30%以上に引き上げることを目標として取り組んでいます。

ECO LOVE製品とは



*ヘッド製品および電池を除外した販売比率
*P9-10 特集「夢のあるTDK製品」もご覧ください。

環境負荷を数値化し「環境配慮設計」で開発

当社では、標準的な数値による環境負荷指数を算出するLCAや、ErP指令で要求されるエコロジカルプロファイルの提出、さらにカーボンフットプリントによるCO₂負荷の表示に対応すべく、製品アセスメントで全ライフサイクルでの環境側面を、定量可能な物理量で数値化（InputとOutput分析）しています。これにより、環境側面を改善することで、トータルで環境負荷を最小化し